

ぐるりしよーばら カメラレポート

頼杏坪の崇高な精神を学ぶ 文化講演会「頼杏坪と庄原」



庄原市文化協会が6月24日、庄原市ふれあいセンターで文化講演会を開催され、東城町出身の作家、藤井登美子さんが「頼杏坪と庄原-杏坪柿に託された民衆への想い」をテーマに講演しました。

この講演会に約70人が参加。頼杏坪は儒学者頼山陽の叔父で、江戸時代後期に三次町奉行として、県北4つの郡を統括し、終生を民衆のために尽くしました。

藤井さんは、少子高齢化や財政難など、頼杏坪が生きていた時代との共通した問題点に触れながら、敬老会の開催や農民救済、飢饉対策などのエピソードを紹介。頼杏坪の生涯現役・生涯学習の姿勢など崇高な精神を学びました。



合併1周年を祝って庄原市の魅力を全国に発信 NHKラジオ「ふるさと自慢うた自慢」

庄原市合併1周年を記念して、NHKラジオ第1放送の人気番組「ふるさと自慢うた自慢」の公開録音を6月23日、庄原市民会館で行いました。

番組では、歌手の大川栄策さんと柏原芳恵さんの2人をリーダーに、地元出演者6人が男女のグループに分かれ、「ふるさと自慢」や「のど自慢」を行い、庄原市の魅力を全国に発信しました。出演者は、またげ・りんご・帝釈峡・ヒバゴン・雪合戦大会・よいとこ祭をPR。また、歌謡ステージ「ふるさと自慢コンサート」も行われました。

庄原よいとこ音頭の歌手である大川栄策さんは「よいとこ音頭を録音した翌年、さざんかの宿が大ヒットした。庄原は縁起のいいまち、また柏原芳恵さんは「庄原にはすばらしい自然やおいしい食べ物があり、また遊びに来たい」と話していました。

「ふるさと自慢うた自慢」は8月13日、「ふるさと自慢コンサート」は8月20日、ともに19時20分～20時10分に放送される予定です。



柏原芳恵さんが果汁100%リンゴジュースを絶賛

囲碁文化を通して交流を図る 第2回庄原市合併記念親善囲碁大会



第2回庄原市合併記念親善囲碁大会(同実行委員会主催)が6月18日、庄原市ふれあいセンターで開催され、市内各地域から34チーム102人の愛好者が熱戦を繰り広げました。

この大会は、囲碁文化を通して合併した各地域の交流と親睦を図ろうと昨年から行われています。

6段から5級までの幅広い参加者が地域単位でチームを編成。競技は1チーム3人の団体戦で、各チームがそれぞれ4回対局して、その勝ち点で順位を決めました。結果は比和Bチームが優勝し、参加者は「来年もお会いしましょう」と再戦を誓い合いました。

雨の中、有事に備え放水訓練 庄原市消防団比和方面隊が夏期教養訓練



庄原市消防団比和方面隊の夏期教養訓練が6月25日、比和中学校体育館などで実施されました。

この訓練は、本格的な梅雨や夏の登山シーズンなどを控えたこの季節に、消防団員の技術向上や防災意識の醸成を目的に毎年行われています。今年も号令により団体行動を行う訓練「集合整理整頓要領」などのほかに、分団ごとに放水技術を競う「放水訓練」

を行いました。この放水訓練は、「とっくり出し」とも呼ばれ、ドラム缶めがけて放水し、ドラム缶に入れた3リットル缶をいかに早く外へ放出するかを競いました。

庄原市消防団では、夏期教養訓練を方面隊や分団ごとに9月上旬まで行われます。

JTサンダーズが庄原で指導 庄原青年会議所がバレーボール教室



宮下選手からトスを学ぶ

一流のスポーツ選手を招き、子どもたちの育成と交流を図ろうと、庄原青年会議所が6月24日、庄原市総合体育館でJTサンダーズバレーボール教室を開催されました。

市内の少年・少女バレーボールチームから109人が参加し、Vリーグで活躍するJTサンダーズの選手6人がさまざまな練習方法を通して、オーバーパスやアンダーパスなどの基礎を指導しました。

子どもたちは身長190cmを超える選手の大きさや技術の高さに驚きながら、「憧れのJT選手と一緒に練習が出来たのがうれしかった」と、基礎練習や交流試合を楽しみました。

企画した平井栄光さんは「子どもたちにとって、一流の選手とのふれあいは一生の思い出となる。これがきっかけとなって、庄原市のバレーボールが盛り上がりしてほしい」と話していました。

蛍のイルミネーション

大屋自治振興区今櫛会ほたる見会

6月27日、西城町大屋地区で「ほたる見会」が行われ、大屋自治振興区今櫛会の住民と西城小学校の児童約80人が参加しました。

午後8時に大屋多目的集会所に集合し、絵本「蛍の星」の読み聞かせの後、みんなで大屋川の支流へ。水田から湧き立つ蛍、川面に照り映える灯、山まで続く蛍のイルミネーションに、歓声が起こっていました。

大屋地区で蛍を育てる取り組みは、10年前、大屋小学校で、自然環境を大切にする学習の一環として始まりました。大屋小学校は一昨年休校となりましたが、自治振興区活動として広がり、西城地域でも有数の蛍の名所となっています。大屋自治振興区今櫛会会長の國上美明さんは「年に一度のほたる見会を楽しみに、草刈など散策道の整備も行っている。農薬の量を減らす。家庭用洗剤の使用に気をつける。カワニナをとり過ぎないなど、みんなで協力し合い、10年かけて蛍が帰ってきた。蛍は地域の自然環境の良さを示すバロメーター。これからもみんなが安心して安全に暮らせる美しいふるさとを守っていききたい」と話していました。



絵本「蛍の星」の読み聞かせ

トップアスリートが集う夏 道後山高原クロカンパークで強化合宿

今年も夏とともに、道後山高原クロカンパークにスポーツ合宿の季節が到来し、多くの競技者でにぎわっています。

クロカンパークは、西城町三坂地区、国定公園道後山の麓に広がる58ヘクタールの総合運動公園。高低差15mの天然芝のクロスカントリーコースや400mトラックなど高水準の施設を備えており、豊かな自然と夏も冷涼な高原の気候といった、スポーツトレーニングのための理想的な環境を求めて、年間37,000人が利用しています。



トレーニング中の実業団中国電力チーム

これまで世界で活躍する多くのトップアスリートがクロカンパークで強化合宿を行ってきました。今年4月に福岡で開催された世界クロスカントリー大会の強化合宿地として使用されたほか、平成19年に大阪で開催される世界陸上大会の直前合宿地として候補地に挙げられています。

現在、土のトラック8レーンのうち3レーンを全天候型の舗装トラックとして改修整備中です。完成すれば、各団体の合宿において、短距離と中・長距離の合同練習ができるようになることから、クロカンパークが世界のスポーツの発展に一層貢献することが期待されます。

電動カーと自転車運転のマナーを学ぶ 交通安全体験講習会

7月11日～20日に実施された『広島県夏の交通安全運動』を推進するため、庄原北公園で7月9日、交通安全体験講習会が開催されました。

子どもから高齢者まで約80人が参加。運動の柱である「高齢者の交通事故防止」「自転車利用者の交通事故防止」の2点に重点を置き、電動カーと自転車に関する講習が行われ、傘や携帯電話を持って自転車を運転することの危険性などを指導しました。



「住宅デー」で保育所施設を修繕 建築職人が地域で奉仕活動



建築に携わる方々で構成される広島県建築センター協会庄原支部が6月25日、「住宅デー」で高保育所と永末保育所の施設を修繕されました。

この「住宅デー」は、地元の建築職人が地域に奉仕する日として、庄原支部では、毎年市内の保育所で奉仕活動を行っています。

今年は、高保育所でひさしの増設やストーブガードの製作、倉庫の修理など、また永末保育所では、砂場の日よけ設置や建具の改修などを行いました。作業を見つめる保育士は「下見から段取りを含め、手際がいい」と職人技に感心し、「子どもたちも、きれいに修繕された保育所で元気に過ごせる」と喜んでいました。

このような建築職人による地域の奉仕活動が、市内各地域で行われました。

親子で水とトモダチになろう ベビースイミングin水夢

6月28日、西城温水プール水夢で、「ベビースイミング」が開催されました。西城保健福祉総合センターしあわせ館を拠点に活動している子育て応援サークル「スマイルトーク」が、三次市のインストラクター上本和也さんを講師に招いて5年前から実施しています。

この日は、生後4ヵ月から2歳までの子どもとその保護者、9組18人が参加しました。最初は不安げな表情を浮かべていた子どもたちでしたが、スキンシップを大切に親と一緒に無理なく自然な形で水に入れるプログラムを進めていくうち、最後には自分から水に飛び込めるようになった子どももいました。

参加者は、「子どもが嬉しそうだったのでよかった。私もよい運動になり、また一緒に来たい」と喜んでいました。このベビースイミングは、今後9月まで計5回開催されます。

西城温水プール水夢は25mプールのほかにフィットネススタジオ、トレーニングジムなどの施設が整い、水泳教室やエアロビクス教室、高齢者のトレーニングや病院との連携によるリハビリの利用など、市民の皆さんの健康づくりに役立つさまざまなメニューが用意されています。



～梅雨空の下での熱戦～ 第38回高野地区職域ソフトボール大会

7月9日、旧高野町時代からの伝統ある「職域ソフトボール大会」が、高野スポーツ広場を主会場に開催されました。

第38回を数える今大会は、高野地区の企業や各種団体など10チームが熱戦を繰り広げました。選手は日頃の練習の成果を発揮し、華麗なプレーのほか、珍プレーや迷プレーも続出する中で、各チームの応援団も盛んに声援を送っていました。

日頃話す機会が少ない選手や応援団も、試合の合間のひと時に談笑する光景が、グラウンド内で多く見受けられ、参加者のふれあう姿が微笑ましい大会となりました。トーナメント方式による試合の結果、「藤元建設B」チームが優勝しました。



音楽で楽しく子育て♪

小奴可保育所が「にこにこ音楽会」

6月20日、小奴可保育所子育て支援センターが「にこにこ音楽会」を開催されました。

演奏者3人を広島市から招き、近隣地域の保育所、育児サークル、子育て家庭の親子約100人が参加。トロンボーン・フルート・ピアノの演奏に合わせ、「それいけ・アンパンマン」や「かえるのうた」など、子どもたちに人気の曲を元気よく歌いました。また、トロンボーンを使っただのパフォーマンスに、子どもたちは大喜び。「まだしてー」のアンコールや拍手で会場は盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

小奴可保育所子育て支援センター「にこにこ広場」では、子育てが楽しくできるように育児相談や育児講座、育児サークル活動などの支援を行っています。



古い木造校舎でバイオリン演奏を楽しむ

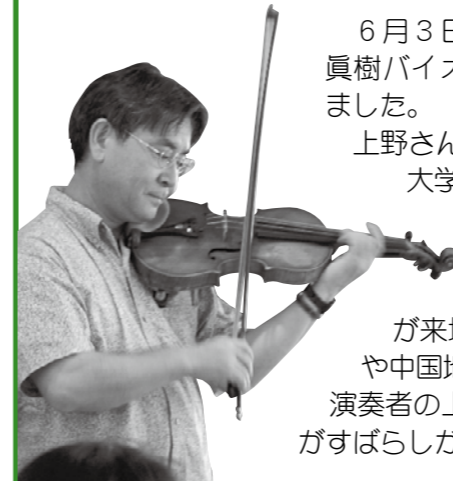
上野眞樹バイオリンコンサート

6月3日、口和郷土資料館で、「上野眞樹バイオリンコンサート」が行われました。

上野さんは、東京生まれで、東京芸術大学、ドイツ・ハンノー国立音楽大学ソリスト・コース卒業後、25年間ドイツ各地や広島交響楽団のコンサートマスターを務め、世界30カ国でも演奏されています。

県北で初めての演奏会に、地元をはじめ広島市などから110人が来場。上野さんの楽しいトークを交えモーツァルトなどのクラシックや中国地方の子守歌など、生のバイオリン演奏を堪能しました。

演奏者の上野さんをはじめ来場者は「古い木造の元校舎の音の響きと雰囲気、がすばらしかった」と話していました。



目の前でバイオリン演奏を楽しむ

事業所で汗を流し将来の生き方を考える

東城の中学2年生が職場体験学習



自分たちの住んでいる地域の職場で、職業に対する理解を深め、将来の夢や生き方について考えようと、小奴可中学校と東城中学校の2年生77人が、5月から6月にかけて東城町内の38事業所で職場体験学習を行いました。

生徒は、あいさつや言葉遣いなどのマナーや、各事業所の仕事内容などを事前学習し、りんごの摘果作業・牛の世話・保育体験・販売・棚卸し作業などに汗を流しました。

東城保育所を訪れた生徒は「おねえちゃんと言って子どもが駆け寄ってきてくれたらうれしかったけど、泣かれるとどうしていいかわからなかった。子どもが好きなので将来は保育士になりたい」と話していました。

東城町の自然や歴史を学ぶ

東城の小学校が「いきいき体験学習」



6月7日・8日の両日、東城町の自然や歴史を学び、児童の交流を深めようと、東城町内6小学校の5・6年生99人が「東城町いきいき体験学習」を行いました。(内堀・八幡・東城小学校は5年生のみ)

初日は、たたら製鉄が盛んだった内堀地区で、木炭生産組合の指導を受けながら炭焼きを体験したり、内堀の神代垣内落鉄穴跡を見学したりしました。また、町中心部を一望できる千手寺では、城下町だった町並みを見渡しながら、東城の歴史を学習しました。

2日目は、国定公園帝釈峡で、野鳥観察や白雲洞・雄橋などを学習するフィールドワークを行いました。

参加した児童は「ぼくたちが住んでいる町なのに、知らないことがたくさんある。野鳥観察も楽しかった」と話していました。

大兼池であじさいを観賞

大戸自治振興区がお花見会



西城町大戸地区大兼池のあじさいが見頃を迎えた7月9日、大戸自治振興区のお花見会が行われました。

大兼池は周囲800mほどの農業用溜池ですが、豊かな森林に囲まれ、真夏でも豊かな水を湛えた池の周囲には700株のあじさいが植えられ、散策道やあずま屋も整備されています。ほ場整備をきっかけに、平成3年頃から

数人の有志が始めたあじさいの植樹が自治振興区活動として根付き、現在では毎年100株程度を植樹、春と秋に草刈作業を行っています。

お花見会には、大戸地区の住民約40人が参加し、作業の労をねぎらいながら、美しく色づいたあじさいと水辺の風景を鑑賞し、楽しいひと時を過ごしました。

あじさい部長の山脇さんは、「昨年末の大雪であじさいや樹木にも被害があったが、みんなで復旧、整理の作業をした甲斐あって、今年もきれいな風景を見ることができた。大兼池は、大戸地区のみんながいっしょに楽しめる手づくりの公園。遠くから大兼池を訪ねる人が増えているのもうれしい」と話していました。

七夕飾りや仮装劇を楽しむ

総領保育所が七夕まつり

総領保育所の七夕まつりが、7月1日に行われました。

年長組21人の七夕にまつわる劇や園児全員の元気いっぱいな踊りが行われ、園児が準備した七夕飾りやお願いの短冊を家族と一緒に大きな笹に飾り付けました。また、毎年恒例となっている保護者会役員による仮装劇が行われ、友達を思いやることの大切さをメッセージとして伝え、総領保育所の園児たちは夏のひと時を家族と楽しみました。



保護者会劇出演者と子どもたち